

## コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

### 児童生徒にとっての「安心できる学校」とは

児童生徒は学校生活の様々な場面について、どの程度、安心感をもっているのでしょうか？栃木県教育委員会は、県内の小・中・高校生を対象とした不登校に関する調査の中で、実際に欠席している児童生徒、欠席意向（学校を休みたいと思う）があるが実際の欠席行動にまでは至っていない児童生徒、欠席意向のない児童生徒に分けて、学校生活の様々な場面で「安心できる」と回答した児童生徒の割合を報告しています（表）。

この調査によると、全ての校種で欠席意向の有無に関わらず、「教科の授業」「体育的行事」「担任教員」に関する安心感が低いという結果になりました。言い換えると、児童生徒は、授業や体育的行事、そして担任教師との関わりで緊張しながら学校生活を過ごしていると考えられます。もちろん、ある程度の緊張感が必要だと思いますが、過度の緊張につながると、不登校をはじめ様々な課題を生じる可能性が高まるのだと思います。

同じ調査では、児童生徒に「欠席意向（学校を休みたいと思った）のきっかけ」を調査しており、その第一位は全ての校種で「友達との関係（いじめを除く）」となっています。また、小・中では「教員との関係」も高くなっています。一方で、「欠席したい気持ちを減らせる要因」についての質問で最多の回答を得たのも「安心して話せる友達がいること」となっており、児童生徒の人間関係形成への支援が重要であることが分かります。「集団」で学ぶ授業の心理的安全性に留意し、「集団で学ぶ」ことの効果を最大限発揮し人間関係形成を促進することがカギといえるのかもしれません。（高橋）

|        |       | 小学校  |              |        | 中学校  |              |        | 高等学校 |              |        |
|--------|-------|------|--------------|--------|------|--------------|--------|------|--------------|--------|
|        |       | 欠席あり | 欠席意向があるが欠席なし | 欠席意向なし | 欠席あり | 欠席意向があるが欠席なし | 欠席意向なし | 欠席あり | 欠席意向があるが欠席なし | 欠席意向なし |
| 児童生徒調査 | 教科の授業 | 26.7 | 30.8         | 48.0   | 16.2 | 19.8         | 36.7   | 12.5 | 14.2         | 25.2   |
|        | 休み時間・ | 67.3 | 66.6         | 75.5   | 59.4 | 61.8         | 75.2   | 50.7 | 52.7         | 63.7   |
|        | 体育的行事 | 25.7 | 28.9         | 43.1   | 21.7 | 28.2         | 46.5   | 17.8 | 19.2         | 32.7   |
|        | 部活動等  | 35.7 | 34.7         | 49.9   | 27.8 | 35.8         | 53.5   | 20.3 | 24.8         | 36.6   |
|        | 友達    | 54.1 | 64.2         | 76.2   | 58.1 | 66.1         | 77.3   | 46.7 | 51.3         | 60.4   |
|        | 担任教員  | 33.3 | 33.1         | 52.6   | 22.4 | 24.1         | 43.9   | 14.1 | 14.7         | 26.1   |

【表】 栃木県教育委員会「不登校に関する調査」（2025年3月）

人権教育・生徒指導課のホームページもご覧ください。  
<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/350/>



Vol.10

発行日 令和7年9月

岡山県教育庁 人権教育・生徒指導課

# 生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

## 心理的安全性 について

生徒指導の実践上の4つの視点に「安全・安心な風土の醸成」が含まれていることからわかるとおり、教室が安全・安心な場であることはとても大切です。「心理的安全性」という言葉を聞かれた方も多きと思いますが、学校における「心理的安全性」について集団心理学の知見をご紹介します。

岡山県教育庁  
人権教育・生徒指導課

〒770-8570  
岡山県岡山市北区内山下2-4-6  
Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134

## Q. 算数の授業では多くの子どもが手をあげるのに、国語や道徳では発言が偏ってしまうのはなぜなのでしょう？

子どもの見せる姿の背景を考える

A. 私自身、似たような経験をしてきました。多くの子どもが発表できるように必死に教材研究をして、発問を工夫したり、「教室は間違ふ所だ」とポスターを掲示したりしたことを思い出します。もちろん、そのような教師側の工夫や手立てが全く功を奏さなかったわけではありませんが、劇的に子ども達が手を上げて発表するという手応えまでは感じられなかったことを覚えています。なぜなのでしょう？

私の授業力の問題を含み、様々な要因や背景があるのは確かですが、「心理的安全性」が不足していたことが最大の理由だったのではないかと考えています。

## 心理的安全性とは？

ハーバード・ビジネス・スクールのエイミー・C・エドモンドソン教授（2014）によると、心理的安全性とは「関連のある考えや感情について人々が気兼ねなく発言できる雰囲気」「チーム内でリスクのある言動をしても安全であることを、全員が共有している状態」と定義されています。別の表現では、「率直であることが許される感覚」ともされています。

病院で起こるミスとチームワークの関係を研究していたエドモンドソンによると、当初は優秀で効果的なチームほどミスが少ないだろうと予想していたにも関わらず、結果は逆で「自分たちはチームワークがよいと回答したチームほど、エラーが多く見られた」という結果になったそうです。詳細に分析すると、優秀なチームほどミスを隠さず、すすんで報告していたため、ミスの数が増えたのです。その理由をエドモンドソンは、「優秀なチームメンバーは、ミスを報告しても仲間にきちんと受け入れられる（安全である）と考えているから」と結論づけています。

心理的安全性がチームの成果を左右する

エドモンドソンの言う「リスク」とは、

率直な意見を述べる、質問をする、間違いを指摘する、自分の間違いを認める、新しいアイデアを提案する、支援を求める など

とされています。学校でもよくある場面ですが、算数は正解、不正解がはっきりしているためリスクは低く、逆に国語や道徳は明確な正解が見つけにくいため、自分の答えが周囲に受け入れられるかどうか？リスクが高いということなのかもしれません。

今、求められている授業は、「課題対立」がある場面を創り出すことで、様々な考えを交流して学びを深めていく授業だと思います。綿密な教材研究により計画された授業でも、心理的安全性が低いクラスでは交流が促進されず浅い学びに留まりますが、高いクラスでは深い学びにつながると言えるかもしれません。

## 発達支持的生徒指導の視点で

エドモンドソンは、「心理的安全性に最も重要な影響をもたらすのは、一番近くにいる監督者や上司である」と述べています。学校では教師がその役割を担っています。そのことから、教師は生徒指導の実践上の4つの視点に含まれる「安心・安全な風土の醸成」の視点を持ち、児童生徒と関わるのが大切です。

心理的安全性を高めるのは教師

<発表に関わる心理的安全性を高める手立て（例）>

- ・児童生徒同士の日常的なコミュニケーション量を増やす
- ・特定の児童生徒だけでなく、多くが参加できるよう発表回数を増やす
- ・発表者をねぎらうと同時に、発表を受けて意見を言った子も誉め、聞き手を育てる
- ・失敗の価値を転換する（失敗の価値づけを繰り返す）  
「なぜ、そう思ったのかな？」  
「〇〇さんの間違いのおかげで、気を付けることがわかったね」など

所属する集団が安全・安心な場（＝心理的安全性が高い）であれば、全員が主体的に取り組み、学びが深まるということですね。

## POINT

- ① 集団の「心理的安全性」の度合いを振り返ってみる。
- ② 発達支持的生徒指導の視点で、心理的安全性を高める。